空き家バンク導入へ

県宅建協会と協定

利用者に助成金支給

奄美市と公益社団法人鹿児島県宅地建物取引業協会（本村満彰会長）は8日、空き家等の媒介に関する協定を締結した。地方創生の一環として「空き家バンク制度」を新たに導入。空き家の利用者に対しては助成金を支給し、8月から募集する。宅建協会と行政が連携し、制度運用をするのは奄美群島の自治体では初めて。

空き家バンク制度は、空き家の賃貸・売却を希望する人から提供された情報を、空き家利用を希望する人に紹介する制度。空き家の有効活用を通した「市民と都市住民の交流拡大」と「定住促進による地域活性化」を図ることなどが目的。

空き家を賃貸・売却したい人は市に申し込み、物件の調査には宅建協会と市の担当者が当たる。登録された場合は市の担当窓口やホームページなどで情報を発信する仕組みだ。

空き家利用を希望する場合は、利用登録の手続き後、物件を見学。気に入れば、県宅建協会奄美支部の仲介により、契約となる。

同市の空き家は約700戸。空き家バンク制度では①移住定住促進住宅購入費助成金（地方創生先行型交付金、500万円）②移住定住促進住宅リフォーム助成金（同）―を実施。8月1日から募集を開始する。いずれの助成金も100万円を上限助成する。

市役所で行われた協定調印式で本村会長は「県下での協定締結は奄美市で3例目となる。空き家は全国的な問題。地方都市の相続による空き家は増えている。専門家として協力したい。誇りと責任を持って貢献したい。定住人口の確保と危険家屋にならないように積極的に取り組みたい」などと語った。

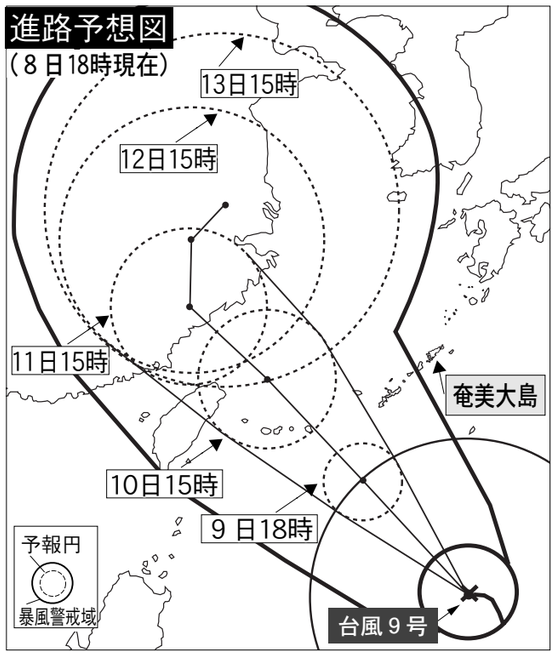
朝山毅市長は「市内にも多くの空き家がある。有効に活用したい。専門家の力を借りることでそれらの需要やニーズに応えられると思う。綿密な連携を図りたい。協定締結にあたりまして感謝したい」と歓迎した。

奄美市

奄美は強風域の恐れ

台風9号

海上大しけ、警戒呼び掛け



大型で強い台風9号は8日、沖ノ鳥島近海を時速20キロで北西に進んだ。予報円の中心を進んだ場合、奄美地方は9日朝、北部は9日昼すぎに風速15メートル以上の強風域に入る恐れがある。海上は大しけとなり、うねりを伴う高波に警戒が必要だ。

名瀬測候所によると、8日午後6時現在、台風9号の中心気圧は965ヘクトパスカル、中心付近の最大風速は35メートル、最大瞬間風速は50メートル。中心から半径170キロ以内は風速25メートル以上の暴風、560キロ以内は風速15メートル以上の強風が吹いている。

台風は勢力を強めながら9日午後6時には沖縄の南へ進み、中心気圧が935ヘクトパスカル、中心付近の最大風速は45メートル、最大瞬間風速は60メートルに達する見込みだ。

予想される最大風速は奄美地方北部が17メートル（最大瞬間風速30メートル）、南部が20メートル（同30メートル）。波の高さは北部が8メートル、南部が9メートルに達し、大しけの状態が続きそうだ。

台風10号は8日午後6時現在、南シナ海上にあり、ゆっくりと北に進んでいる。今後は西寄りに進路を取り、11日には熱帯低気圧に変わる見込みだ。

非常に強い台風11号は8日午後3時現在、マリアナ諸島付近にあり、時速15キロで西に進んでいる。9日は発達しながら進路を西北西に変えて進むとみられる。名瀬測候所は「強風にも注意が必要」とし、最新の情報を活用するよう呼び掛けている。

海のダイヤに乱れ

長期化に備え食料買いだめも

台風接近に伴い、奄美関係の海の便は8日、瀬戸内町の古仁屋と請、与路両島を結ぶ定期船「せとなみ」などが欠航した。9日は鹿児島―奄美―沖縄航路の上下便など一部が欠航が決まっている。

船舶各社によると、「フェリーあけぼの」は8日鹿児島発の下り便が欠航、10日那覇発の上り便が運航を見送る。鹿児島―平土野間の「フェリーあまみ」は8、9の両日が欠航。「クイーンコーラル8」は9日の沖縄発鹿児島行きが欠航となった。

古仁屋と加計呂麻島を結ぶ「フェリーかけろま」は8日の最終便から9日の早朝便まで、せとなみは9日午前便まで運航を見合わせる。

古仁屋のスーパーでは欠航の長期化を見越し、生鮮食品をまとめて購入する人の姿が目立った。カップ麺やミネラルウオーターの売れ行きは通常の2倍。仕入れ担当者は「今回は進路が読みづらく、いつまで欠航が続くのか分からない」と困った表情を見せた。

古仁屋港では加計呂麻島行きのフェリーに数日分の食料を積み込む車両が忙しく行き来した。同島の農業古俣文喜さん（51）は「数日分を確保しておけば何とかしのげる。これから風よけのためミカンの木にネットをかぶせます」と話した。

加計呂麻島行きのフェリーに大量の生鮮食品を積む船員＝8日、瀬戸内町の古仁屋港

山林の遺体、不明の女性と判明

奄美署

奄美市名瀬小俣町の山林で今月7日に見つかった遺体について、奄美署は8日、今年2月から行方不明だった奄美市名瀬浜里町無職、児島サヨ子さん（75）＝当時＝だと分かったと発表した。

奄美署によると、身につけていた医療用の装具で身元が判明した。遺体に目立った外傷はなく、死因などの詳細は不明。事件、事故の両面から捜査を継続中という。

児島さんは今年2月27日に市内の病院に向かったとみられるがその後の足取りがつかめず、奄美署などが捜索していた。

子牛価 高値続く

個体差でばらつきも

大島地区7月競り

平均58万9876円に

JA県経済連肉用牛事業部肉用牛課奄美市駐在は8日、7月の大島地区子牛競り市速報を発表した。奄美6市場の平均価格は58万9876円で、前回5月（徳之島は6月）と比較して1万1121円（1・9％）高で、高値水準を維持した。同駐在は「枝肉相場が堅調に推移した結果が表れた」と分析。一方で「前回に比べ個体による価格のばらつきが大きくなったように思われた」として、商品性向上に向けた取り組み継続を呼び掛けている。

入場1736頭、売却1731頭。平均価格は雌54万1803円、去勢62万7679円で、前回と比べ雌は8723円（1・6％）高、去勢は1万1398円（1・8％）高。最高価格は雌80万3千円、去勢75万5千円だった。

市場別の平均価格は瀬戸内60万3208円を筆頭に沖永良部（2日間合計）、徳之島中央（同）、与論、喜界、笠利の順。購買者からみた評価指標となる1キロ当たり平均単価は沖永良部2515円、与論と喜界2445円、徳之島2422円、瀬戸内2383円、笠利2371円の順。競り日齢に係る若齢順位は喜界2422日、笠利2444日、沖永良部2246日、瀬戸内と徳之島251日、与論253日の順だった。

同駐在は、競り状況から「商品性の高い個体は前回よりも高く、肥育農家で重量の見込めない体高の足りない個体や見た目より体重の重い個体は下落したような印象だった」と指摘。自給粗飼料の確保や母牛の更新、自家産優良牛の保留などを促している。

2015年7月大島地区子牛競り市成績速報

JA鹿児島県経済連（単位：頭、円）

市場名＼項目	性別	入場頭数	売却頭数	総売上金額（売却分）	最高価格	最低価格	平均価格	前回比価格
与論 7月1日	雌	136	136	74,286,000	655,000	350,000	546,221	15,620
	去勢	188	188	115,467,000	745,000	352,000	614,186	11,285
	合計	324	324	189,753,000	745,000	350,000	585,657	17,024
沖永良部 7月2日	雌	93	93	51,056,000	702,000	408,000	548,989	5,514
	去勢	145	145	90,975,000	755,000	383,000	627,414	1,526
	合計	238	238	142,031,000	755,000	383,000	596,769	9,641
沖永良部 7月3日	雌	104	103	57,011,000	702,000	215,000	553,505	10,030
	去勢	109	108	68,747,000	752,000	445,000	636,546	10,658
	合計	213	211	125,758,000	752,000	215,000	596,009	8,881
沖永良部 合計	雌	197	196	108,067,000	702,000	215,000	551,362	7,887
	去勢	254	253	159,722,000	755,000	383,000	631,312	5,424
	合計	451	449	267,789,000	755,000	215,000	596,412	9,284
徳之島中央 7月4日	雌	149	148	80,033,000	670,000	250,000	540,764	1,775
	去勢	199	199	124,809,000	753,000	328,000	627,181	2,690
	合計	348	347	204,842,000	753,000	250,000	590,323	4,117
徳之島中央 7月5日	雌	83	83	43,795,000	803,000	365,000	527,651	▲11,338
	去勢	101	101	65,186,000	749,000	452,000	645,406	20,915
	合計	184	184	108,981,000	803,000	365,000	592,288	6,082
徳之島中央 合計	雌	232	231	123,828,000	803,000	250,000	536,052	▲2,937
	去勢	300	300	189,995,000	753,000	328,000	633,317	8,826
	合計	532	531	313,823,000	803,000	250,000	591,004	4,798
瀬戸内 7月6日	雌	42	42	23,782,000	692,000	451,000	566,238	22,867
	去勢	35	35	22,665,000	725,000	534,000	647,571	17,419
	合計	77	77	46,447,000	725,000	451,000	603,208	17,723
笠利 7月6日	雌	75	73	38,911,000	673,000	384,000	533,027	▲51
	去勢	75	75	46,570,000	741,000	410,000	620,933	▲5,362
	合計	150	148	85,481,000	741,000	384,000	577,574	▲6,708
喜界 7月7日	雌	84	84	43,980,000	609,000	300,000	523,571	16,455
	去勢	118	118	73,802,000	753,000	348,000	625,441	17,545
	合計	202	202	117,782,000	753,000	300,000	583,079	9,270
合計	雌	766	762	412,584,000	803,000	215,000	541,803	8,723
	去勢	970	969	608,221,000	755,000	328,000	627,679	11,398
	合計	1,736	1,731	1,021,075,000	803,000	215,000	589,876	11,121

注）頭数に自家保留分は含まない。価格は、競り市成立（売却分）のみ。前回比については、前回成績の速報値と比較。徳之島中央については6月分と比較。
（沖永良部・徳之島中央は2日間の合計と比較）

小中学生が一日保護司に

知名町

社会を明るくする運動で広報

【沖永良部総局】南大島保護区保護司会知名支部（木脇茂盛支部長）は8日、知名町で第65回社会を明るくする運動の広報活動を行った。

犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする全国的な運動で、7月は強化月間。同支部はこの日、木脇支部長らが宗岡与名彦副町長を訪問し、内閣総理大臣、県知事メッセージを伝達した後、町内を回って町民に運動の趣旨を呼び掛けた。

夕方は一日保護司に委嘱された町内の5小学校、2中学校の児童生徒代表7人と支部会員、沖永良部署、役場担当者など約20人が町内のスーパー前で買い物客に啓発グッズを配った。

一日保護司を務めた穐田圭佑君（14）＝田皆中3年＝は「罪を犯した人の立ち直りを支援することで、犯罪のない明るい社会になってほしい。グッズを渡すのは難しかったが、協力を呼び掛けることができた」と話した。

啓発グッズを配る一日保護司の児童ら＝8日、知名町

口永良部島は依然活発

桜島で爆発的噴火64回

気象庁が8日に発表した6月の火山概況によると、九州の主な火山では、住民らが全島避難している口永良部島で火山活動が活発に続き、噴煙が火口の上空9千メートル以上にまで達した5月29日の爆発的噴火と同程度の噴火が、今後も起きる可能性があるとして、警戒が必要としている。

噴火警戒レベル3（入山規制）となっている桜島の昭和火口では、噴火が計103回あり、うち64回は爆発的噴火だった。伸縮計の測定では、膨張とみられる山体の変化が1月から続いており、気象庁は噴石や火砕流に注意するよう呼び掛けた。

阿蘇山については6月10日、干上がっていた中岳の火口で、昨年7月以来となる湯だまりを確認したが、6月29日の観測では再び消失していた。一時的に湯だまりができたことが、火山活動の沈静化を示すものかどうか慎重に見極めるとしている。

窃盗容疑で男を逮捕

瀬戸内署

瀬戸内署は8日、窃盗の疑いで瀬戸内町古仁屋大湊、無職岡田和夫容疑者（66）を逮捕した。

逮捕容疑は6月10日午後11時ごろ、古仁屋の海上タクシー乗り場前で、長崎県佐世保市の公務員男性（20）所有の現金入り財布やカードなど6点（時価合計1万5千円相当）を盗んだ疑い。

同署によると、知人の見送りに来た男性が、手荷物の上に財布を置いたまま約10分離れた間に、財布がなくなったらしい。

聞き込みで岡田容疑者が浮上。職務質問したところ、財布を所持していた。同容疑者は当時、近くで飲酒していたらしい。

「落ちていたのを拾っただけ」と容疑を一部否認しているという。

強盗の罪で男を起訴

地検名瀬支部

昨年12月に伊仙町であったコンビニ強盗事件で鹿児島地検名瀬支部が6日、徳之島町の農作業手伝い崎原主税容疑者（20）を強盗の罪で鹿児島地裁名瀬支部に起訴したことが8日までに分かった。

起訴状などによると、崎原被告は現金を強奪しようと考え、2014年12月5日午前2時59分ごろ、伊仙町のコンビニエンスストアで男性店員（当時33歳）に包丁様のものを示して「金を出せ」などと脅迫。現金18万4千円を奪ったとされる。